

(別記1)

令和3年度佐野市市民活動参画支援事業実績報告書

事業名 地域文化・歴史等の普及啓発事業 団体名 安蘇史談会

事業目的	郷土史の調査・研究を行うことにより、郷土史の普及を図り、地域住民の文化向上に寄与する。
事業成果	令和3年度においても、恒例の第37回講座「安蘇の風土と歴史」を開催し、会報『史談』第37号も発刊することができた。また、「とちぎ歴史資料ネットワーク」に加入し、佐野市郷土博物館に贈呈する復元した水損史料の目録作成を行った。さらに会員の資質向上を図るため会員の個人発表を行った。新型コロナウイルス感染防止のため見学会等が出来なかったが、地域住民の文化向上には一定の成果があったと考えている。

【事業内容】

1 第37回講座「安蘇の風土と歴史」の開催





新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用とともに受付時に体温の測定、手の消毒をお願いし、受講者数は会場の収容人員の半分以下にするなどをお願いし開講しました。

受講者数は、佐野市民の方を中心に宇都宮市、足利市、栃木市等からご参加いただき、4回の延べ人員で402名となりました。毎年受講いただく方も多く感謝しております。

今回も次のように佐野市中央公民館3階ホールで、午後1時30分から3時30分まで開催しました。

ア 7月 3日（土）「石垣から見る唐澤山城」

講師：栃木県文化財保護指導委員 茂木孝行氏

イ 7月10日（土）「佐野氏と中世の渡良瀬川上流域」

講師：宇都宮短期大学人間福祉学科教授 江田郁夫氏

ウ 7月17日（土）「田中正造と小中との関わり」

講師：田中正造大学事務局長（安蘇史談会会員）坂原辰男氏

エ 7月24日（土）「近世野州石灰の生産と流通」

講師：栃木県教育委員会事務局文化財課長 山本訓志氏

この講座については、安蘇史談会が作成したチラシを地区公民館等に置いたり、マスコミに記事の掲載をお願いするとともに、佐野市文化協会のホームページからも参加者を募集しています。また、結果についても同協会のホームページに掲載しています。

この結果、佐野市民の皆様の郷土史の理解を深め、郷土への愛着を図られたと自負しています。

【事業内容】

2 会報『史談』第37号の発刊



『史談』 第37号 目次

巻頭言

とちぎ歴史資料ネットワークへのご理解とご支援を……海老原脩治

武士の成立と藤原秀郷

〔安蘇の名門武士団・佐野氏のルーツをさぐる〕……山本 享史 1

平将門・藤原秀郷の伝説……

板垣 隆 11

〔史料紹介〕鎌倉時代前期の佐野氏について……

鴨志田智啓 22

大塔宮護良親王に関する六つの謎……

上岡 一雄 28

大庵寺に伝わる鎗と薙刀について……

冥賀 明儀 64

松村梅岡ほか詩「佐野十二詠詩画卷」(朝日森天満宮)

―「好學」の地の景勝を選び、描き、詠む―……末武さとみ 71

江戸時代に奉納された佐野の狛犬……

山口秋葉子 87

天明鑄物伝説……

茂木 克美 93

史料に読む幕末・下野国【出流山事件】(二)

―関東取締出役や関東諸藩の動向を中心に―……海老原脩治 103

小林真齋の書……

青山 守 134

證家の始まりから現在まで……

大川 圭吾 139

〔史料紹介〕森蘭村発行の『文明新誌』その五

『文明新誌』に学んだ人々……廣木 雅子 164

田中正造と小中との関わり

―「小中村 よもやま話」―……坂原 辰男 187

下野・とちぎの民画

佐野掛地祝い絵遍歴備忘録……藤田 好三 194

大隈重信が語る佐野常民の

別格官幣社唐澤山神社創建への苦難の道……大高八三郎 215

安蘇史談会、とちぎ史料ネットへ加入……

安蘇史談会 263

講座「第三六回安蘇の風土と歴史」の開催状況……安蘇史談会 266

令和二年度「安蘇史談会日誌」

安蘇史談会会則

会員名簿

会員募集のお知らせ

編集後記

〔表紙解説〕

旧佐野市内最古の狛犬 鷲宮神社(佐野市犬伏上町)

山口秋葉子著「江戸時代に奉納された佐野の狛犬」

八七頁参照

〔口絵写真〕

地元佐野地方に遺された掛地の一例

藤田好三著「下野・とちぎの民画 佐野掛地祝い絵遍歴備忘録」

一九四頁参照

武士の成立と藤原秀郷

安蘇の名門武士団・佐野氏のルーツをさぐる

栃木県立博物館 山本享史

はじめに

安蘇の名門武士団・佐野氏のルーツは、平安時代に下野で活動した武将藤原秀郷まで遡る。現代における史実としての秀郷に対する認識は乏しく、どちらかというの後世に伝説となつて伝わる藤原太のイメージのほうが先行しているように感じられる。時には藤原太を実在した人物としてみなし、各地のタワラの地名をもつて出身地に当てはめるといったことも起きている。つまり、秀郷に対する認識は史実と伝説が混在しているのである。歴史を考える上で、史実と伝説は明確に分けるべきである。



大ムカデと戦う藤原太と藤原秀郷（栃木県立博物館蔵「藤原太物語絵巻」上巻）

藤原秀郷は、平安時代中期に関東に独立国家の樹立を図つた新皇平将門を打倒した人物として知られる。子孫の秀郷流藤原氏（秀郷流武士団）は関東を中心に全国に展開し、源氏や平氏に劣らない名門武士団を形成した。武士成立の契機は天慶の乱（平将門の乱および同時期に起こつた藤原純友の乱の二つの乱をいう）と考えられていることから、将門を討伐した秀郷は、まさに中世武士の元祖の一人としてみなされている。

一方で、勇猛果敢な秀郷像は次第に神格化され、室町時代には大ムカデ退治で有名な「藤原太物語」として語られるようになった。藤原太とは秀郷の別称で、藤原太は藤原氏の長男、倭とは琵琶湖を荒らす三上山の大ムカデを退治したことに対する龍神からお礼として、尽きることのない米俵を贈られたことに由来する。藤原太は、瀬田橋の下にあった龍宮を訪れて釣鐘を与えられているが、それは三井寺に寄進されたという。これら「藤原太物語」の舞台が近江（滋賀県）となっている



「藤原太物語」の舞台となった瀬田の唐橋（滋賀県大津市）

7月10日に会報『史談』第37号（A4判・276頁を、600部発刊しました。内容は、次のとおりです。（参考：目次の写真）

表紙写真：旧佐野市内最古の狛犬 鷲宮神社（佐野市犬伏上町）

口絵写真：地元佐野地方に遺された掛地の一例

巻頭言：とちぎ歴史資料ネットワークへのご理解とご支援を 海老原脩治

武士の成立と藤原秀郷～安蘇の名門武士団・佐野氏のルーツを

さぐる～

平将門・藤原秀郷の伝説

山本享史

板垣 隆

「史料紹介」鎌倉時代前期の佐野氏について	鴨志田智啓
大塔宮護良親王に関する六つの謎	上岡一雄
大庵寺に伝わる鎗と薙刀について	冥賀明儀
松岡梅岡ほか詩「佐野十二詠詩画卷」(朝日森天満宮)	末武さとみ
江戸時代に奉納された佐野の狛犬	山口秋葉子
天明鋳物伝説	茂木克美
史料に読む幕末・下野国【出流山事件】(二)～関東取締出役 や関東諸藩の動向を中心に～	海老原脩治
小林眞齋の書	青山 守
鐙塚の始まりから現在まで	大川圭吾
史料紹介森鷗村発行の『文明新誌』その五	
『文明新誌』に学んだ人々	廣木雅子
田中正造と小中との関わり～「小中村よもやま話」	坂原辰男
下野・とちぎの民画佐野掛地祝い絵遍歴備忘録	藤田好三
大隈重信が語る佐野常民の別格官幣社唐澤山神社創建への苦難 の道	大高八三郎
安蘇史談会、とちぎ史料ネットへ加入	安蘇史談会
講座「第36回安蘇の風土と歴史」の開催状況	安蘇史談会

この会報『史談』第37号は、郷土史の普及を図るため、佐野市内の3図書館、ここねっと、城北地区公民館をはじめ栃木県立図書館、足利、栃木、壬生の図書館それに国会図書館に寄贈しています。そして今号は早稲田大学図書館にも寄贈しました。

また、佐野市内の高等学校、佐野市立郷土博物館、佐野市吉澤記念美術館、栃木県立博物館、栃木県立文書館等にも寄贈しています。

さらに、佐野市文化協会のホームページで紹介するとともに佐野市内の書店(2店舗)や佐野市吉澤記念美術館や栃木県立博物館の販売コーナーで販売しています。

37年間毎年発行することにより、一定の成果は得られていると思っておりますが、今後も、郷土史研究・調査の研鑽に励み、『史談』の発行を継続したいと考えています。

【事業内容】

3 水損資料の保全活動への参加



令和元年（2019）10月に佐野市域を東日本台風が襲い、秋山川などが決壊、越水し佐野市全域に多大な影響を及ぼしました。そのなかで佐野市民が収集保管していた軍事関係資料が水没してしまいました。

この資料は、令和2年（2020）に設立した「とちぎ史料ネット」（代表：宇大高山先生）によって救出されました。安蘇史談会も令和2年6月に水損史料保全作業に携わりました。

そして、この軍事関係資料のうち、佐野市域に関連したものを佐野市立郷土博物館に寄贈することになりました。寄贈するには、目録作成が必要となります。そこで「とちぎ史料ネット」の呼びかけもあり安蘇史談会がこの作業を担当することになりました。

ただ、安蘇史談会は郷土史が大好きな人たちのサークルであります。これまで目録作成の作業に関わった会員はおりません。一人ひとりの会員の情熱だけが頼りという状況でしたが、次のように目録を完成することができました。作業を行った場所は、いずれも佐野市立郷土博物館2階の学芸員室及び会議室でした。

ア 5月29日（土）午後1時00分～5時00分

宇大の高山先生から作業の手順の説明があり、目録の作業に着手

参加者・安蘇史談会会員11名

イ 6月5日（土）午前9時00分～12時00分

目録8種類の作業完了、他は作業を継続

参加者・安蘇史談会会員8名

ウ 6月12日（土）午前9時00分～12時00分

目録13種類の作業完了、他は作業を継続

参加者・安蘇史談会会員9名

エ 6月26日（土）午前9時00分～12時00分

目録8種類の作業完了、他は作業を継続

参加者・安蘇史談会会員9名

オ 10月9日（土）午前9時00分～12時00分

目録28種類の作業完了、他は作業を継続

参加者・安蘇史談会会員9名

カ 10月16日（土）午前9時00分～12時00分

目録18種類の作業完了、他は作業を継続

参加者・安蘇史談会会員11名

キ 10月23日（土）午前9時00分～12時00分

目録10種類の作業完了、他は作業を継続

参加者・安蘇史談会会員8名

有日法檢同...
外...
...
...

有日...
...
...

德...
...
...

有...
...
...

安蘇史談会では、第2と第4の月曜日、午後6時30分から、城北地区公民館で例会を開き、個人発表も実施しています。これは、会員が日ごろ関心をもっていることを発表しあい、郷土史の研鑽を深めてくものです。このことが郷土史の普及に繋がると考えています。

ア 奥のほそみち

イ 出流山事件について

ウ 戦車第一連隊と佐野

エ 国宝～一遍聖絵巻物に描かれたある場面について～

オ 大相撲について

カ 出羽三山を読んだ芭蕉の句

キ 「谷中村事件」、その後……

ク 幕末から近代日本建設までの沿革